



地域で話そう、  
地域のこれから。

# 『きみつシン地域づくり懇談会』

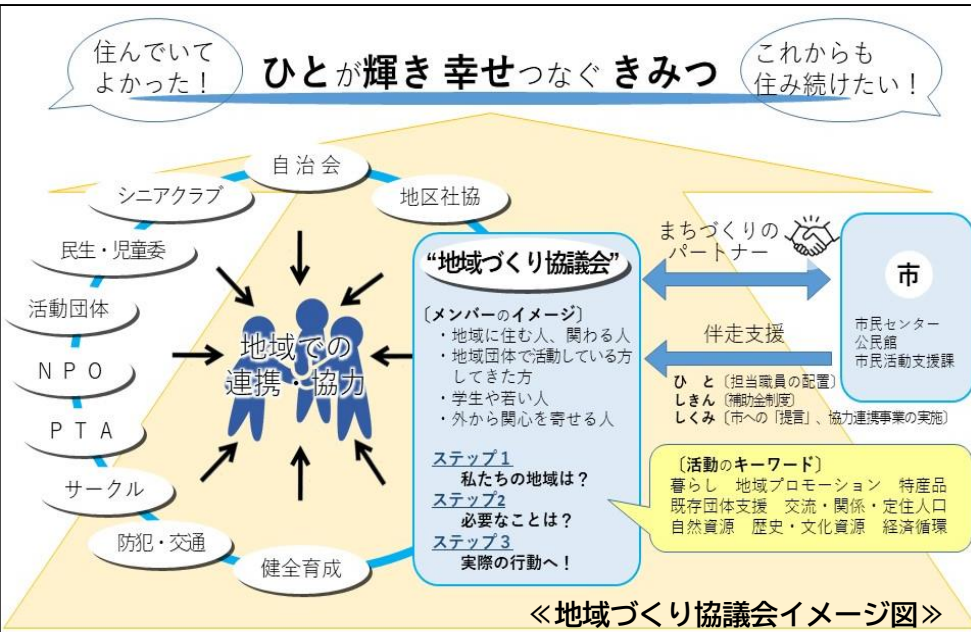
～心躍る新たな地域づくりを目指して～

令和5年10月上旬に、市内5地域(小櫃・上総・小糸・清和・君津)で開催しました！

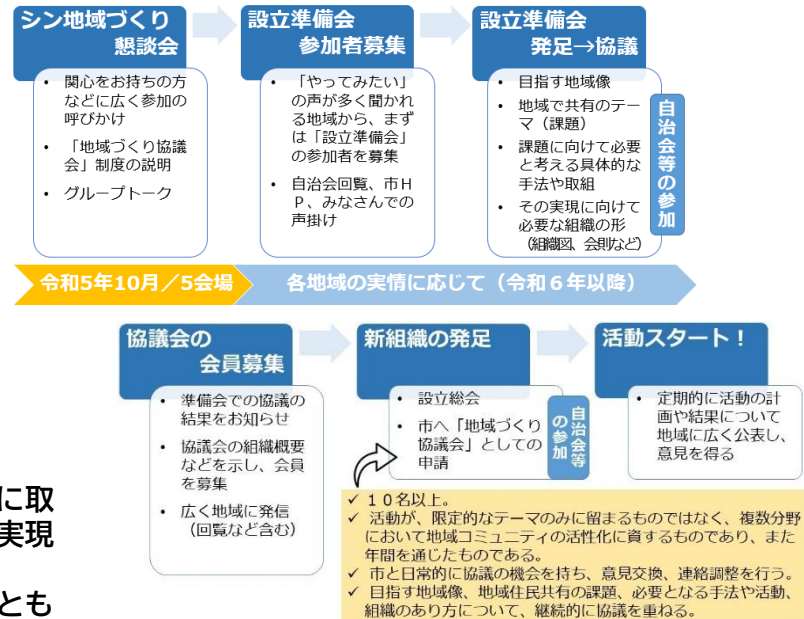


すべての会場に、  
石井市長も参加  
しました。

市が現在計画している「**地域づくり協議会制度**」を、より動きやすく実のある制度にするため、地域のみなさんに現状の制度イメージを説明し、グループトークによる地域での「もしも」シミュレーションを通して出てきた課題やご意見を制度に反映することを目的に、市内5地域の公民館エリアごとに懇談会を開催しました。



地域づくり協議会設立までのプロセス



## 地域づくり協議会とは

地域に住んでいる人や、その地域に関心を寄せる人が、主体的に「地域づくり」に取り組むことで、更なる地域コミュニティの活性化と多様な住民自治（地域自治）の実現を目指すための仕組みです。

有志の住民により運営される協議会では、地域共通の課題を共有し、地域の団体とも連携しながら、自分たちサイズの様々な活動を検討、実行していくことを想定しています。市は、まちづくりのパートナーとして、継続的な伴走支援を行います。



小櫃地域

10月3日(火)

参加者 14名

## グループトークのテーマ

## もし、小櫃地域で「地域づくり協議会」を作るとしたら。



### ➡️ «出てきたキーワード(抜粋)»

#### ●地域資源・共通課題

資源:水・農地・田園風景・古墳・都心に近い立地・木更津、袖ヶ浦との隣接地・羽田、成田の中間地(物流拠点のポテンシャル)

課題:公共交通・若者が少ない・高齢化・人材不足・高齢者の活躍の場が少ない・公民館利用団体同士の交流が少ない・農地の保全と活用・開発しにくい土地

#### ●地域に必要なこと、やってみたいこと

魅力、特色の創造・小櫃の魅力発信・スポーツの活性化・農業の法人化・自治会活動の活発化・能力のある人に出てきてもらう・継続・自然を活かした子育てとその支援・若者が戻ってくるような取組・高齢者の生きがいづくり・若者と高齢者の共通の活動・木更津東ICの活用

#### ●協議会に、こんな人が集まってほしい

前向きな人・普段自治会活動に参加していない人・地域の若い人・豊富な経験を要する人かつ若い人の意見を認められる人・知識のある高齢世代、サポートする中高年世代、情報発信力のある若者世代・各種団体の代表者・外部の人・若者・

### ➡️ «アンケート(抜粋)»

#### 制度について

- ・多くの参加者を期待している。
- ・制度を作ることで、活動が活発化できればいい。
- ・恒久的に続けて行く、また定着させるのは大変なことだと感じた。
- ・地域内では、小櫃上総地区で取り組むコミュニティスクール、農地の地域計画策定による将来に向けた地域農業の動きもある。必要な情報共有ができるよう配慮する必要があると思う。
- ・将来に向けた展望を地域の住民で分かち合い、地域の維持と存続を図るためには良い制度。
- ・色々な状況を踏まえて、より良い議論にして行かなければならないと思う。

#### 懇談会の感想、ご意見

- ・各地区で懇談会をひらくなど、みんなで考える、情報を共有する、といったことが重要。
- ・色々な考えに触れることができ、有意義だった。ただ、出席者については既存団体からや現役世代の人達にも加わってほしいと思う。
- ・地域が抱えている課題と現状を理解することができてよかった。
- ・将来を語り合っ欲しい年代の参加がないとせっかくの機会が将来に向けて機能しない。集め方を考える必要がある。





上総地域

10月4日(水)

参加者 12名

## グループトークのテーマ

## もし、上総地域で「地域づくり協議会」を作るとしたら。



### ➡️ 《出てきたキーワード(抜粋)》

#### ●地域資源・共通課題

資源:湧き水・緑・空気・紅葉・自然・特産品・街並み・久留里城・学校、保育園跡地・都心へのアクセスの良さ・人間国宝・大戸見神楽・温かい人

課題:空き家バンクの登録が少ない・久留里商店街の活力低下・観光PRが弱い・若い人が少ない・人手不足(祭り等ができなくなっている)・若い人をどう呼び込むか・公共交通・地区が広い(支部が必要では?)・農地の利活用・人口減少・学校減少・文化、特徴の情報発信・観光案内看板が古い

#### ●必要なこと、やってみたいこと

学校跡地活用・インバウンド・空き家情報の発信・コミュニティの場の確保・リモートワークできる場・地区が広いため支部を設ける・人が集まるイベント・インフラ整備・藍染ハンカチをふるさと納税の返礼品にする・まずは市内に上総の魅力を情報発信

### ➡️ 《アンケート(抜粋)》

#### 制度について

- ・積極的に進めてほしい。
- ・充実、実行できる事、望みます。
- ・出来るだけ発足にこぎつけると良い。
- ・上総地区でひとくりにできない課題に対応するために、その下に久留里・松丘・亀山の支部を作ったほうがよいのでは？
- ・何か一つ実現出来ればと思う。
- ・地域の自助力を高める活動は必要だと思う。
- ・有志が主体的に地域を良くしていく活動をするとても可能性のある制度だと感じた。実行力と継続性をどう担保していくかが課題ですが、何か貢献できることがあればと思う。

#### ●協議会に、こんな人が集まってほしい

若い世代・様々な経歴のある人・経験豊富な人・自治会役員・地域のことをよく知る人・地域課題をよく知っている人・目標を持った人・企画力、実行力のある人・人のために何かできる人

#### 懇談会の感想、ご意見

- ・様々な意見があり楽しかった。平日の夜は若い人の参加が少なくなるのかなと思った。
- ・皆さん同じような考えをお持ちだった。どう具体化するかが課題になるのでは？
- ・何度かこのような会を重ねる必要がある。
- ・若い人の意見を聞いてよかった。
- ・若い人にとっても、高齢の方の意見はとても新鮮だった！
- ・郷土愛を感じることができた。





小系地域

10月5日(木)

参加者 13名

## グループトークのテーマ

## もし、小系地域で「地域づくり協議会」を作るとしたら。



### 「出てきたキーワード(抜粋)」

#### ●地域資源・共通課題

資源: 多様性・竹・自然・空き家・空き地・井戸・水・遺跡・カラー・米・農産物・小系在来・地域活動・上総掘り井戸・富士山が見える・景観・山砂・都心へのアクセス・地価が安い

課題: 耕作放棄地・後継者不足・地域の良さを知らずとしない・若者が戻ってこない・車の通りは多いが通過点・新旧住民の交流・カラーの担い手不足

#### ●地域に必要なこと、やってみたいこと

荒れた農地、道、空き家の再整備・住民交流の場・芸術活動の拠点づくり・子どもが学べる場、遊べる場・高齢者が歩いて通えるコミュニティの場・避難所を兼ねた公園・未利用農地の活用・地域の魅力の再認識・各地域団体の活動内容の整理・世代間交流・砂取り場の活用・子育て情報の発信・君津高校上総キャンパスの活用・伝統行事・若い人の働く場・上総掘りのアピール

### 「アンケート(抜粋)」

#### 制度について

- ・これからの君津小系には必要と思う。
- ・まだよくわからない。
- ・活動によって、各地域での課題が浮かび上がってくる。
- ・参加人数から、地域づくりの必要性に興味がない、切欠のない人がほとんどと思える。市からこまめな情報発信をして盛り上げて欲しい。
- ・個人的には良い取り組みだと思う。ただ、多くの会(自治会とか)が増えた時、参加するのが同じ人になってしまうと、活動を広げるのは難しいのかなという感触がある。参加する人が偏りすぎないといいなと思う。

#### ●協議会に、こんな人が集まってほしい

若い人・女性(クォーター制)・子育て世代・シニア世代・発言力のある人・意見を受け入れられる人・客観的に課題解決に向けて動ける人・自分の考えを持っている人・やる気のある人・外部の人・若い人・既存団体で活躍している人・年配の人・教育者、政治学者、コンサルタント等の専門家・転出者

#### 懇談会の感想、ご意見

- ・様々な意見があり面白いが、難しいことが多い。
- ・前向きな方が多くてうれしかった。すばらしい方がいっぱい居ますね。
- ・プラッと来てしまったが、色々なお話しができて考えさせられたのと、とても楽しくワクワクしてきたのとで有意義な時間だった。
- ・同じ小系地区でも、中島や泉と、糸川では環境がかなり異なるので、その土地ならではのアイデアや考え方があり、短い時間でしたが皆さんの話が聞けて楽しかった。





清和地域

10月6日(金)

参加者 6名

## トークテーマ

## 清和での「地域づくり協議会」について



### ●これからの清和

- ・今困っていることはないが、5年、10年後は人が減って困ることがあると思う。協議会も人員を確保して続けていかないといけない。
- ・子どもが遊びに行くにも家が遠く難しかったが、コミュニティ清和の取組でそこがフォローされつつあり助かっている。
- ・コミュニティ清和は20代後半の若い人や、東京、神奈川から参加している人もいるので、その輪が広がっていけば10年後の継続にも繋がっていくのではないかなと思う。
- ・イノシシの防護柵を田んぼに設置する活動をしているが、10年後、この田畑を誰がやってくれるだろうかと心配している。自分の田んぼ自分で管理するだけでなく、企業に委託するなど、方法を考えていかないと荒れた農地が増えてしまう。
- ・祭り等の行事の際は、出ていった若い人が帰ってくる。こういった行事をとおして若者と高齢者の交流を図るなど、地域で考えていかないといけない。
- ・一度清和を出て15年前に戻ってきたときに、人が減っていてショックを受けた。若い人が出ていく理由を考えて、若い人が住んでいけるような地域にすることが必要。文化財、伝統を守るような援助も必要。

### ●地域づくり協議会

- ・職員の配置が一番大事なことで、支えてもらえることでやる気にも繋がる。各地域で特色も課題もまったく違うと思うので、地域を良く知っている人が動くのが一番いいのではないかな。
- ・今までの協議会というのは、会議だけだった。地域づくり協議会は会議で意見を出し合っ、それを行動・実践する協議会だと思っている。枠にはまった活動だけでは地域の活性化は難しいと思うので、拠点となる施設を柔軟に活用できるようにお願いしたい。



### ●地域に必要なこと、やりたいこと

- ・田畑を維持しないと、草は生えるし、イノシシは来るし、清和の環境が維持できないと感じている。田んぼは一度やめてしまうと再開が大変。空き家にも言える。いかに途切れさせないかということ地域づくり協議会の機能として持たせると良いと思う。
- ・若い人、外から関心を寄せる人をいかにメンバーに呼び込むかを考えていきたい。
- ・地域づくり協議会が関係者と協力して、清和をより住みやすい地域になるよう、地域全体で考えていかないといけない。
- ・協議会が全部をやるということではなく、いろんなことを繋いでいくなど、みなさんの活動で少しずつ動き出していくといいと思う。
- ・ずっと地元にいると良さが見えず、欠点ばかり見えてしまうので、新旧住民の交流の中で清和の良さを聞いて、欠点もプラスの方向にもっていけるような活動が大事だと思う。

# 『きみつシン地域づくり懇談会』 ～心躍る新たな地域づくりを目指して～



君津地域

10月10日(火)

参加者 38名

※君津地域は、君津中央公民館・八重原公民館・周西公民館・周南公民館のエリアとして実施。

## グループトークのテーマ もし、皆さんの地域で「地域づくり協議会」を作るとしたら。



### ▶ 《出てきたキーワード(抜粋)》

#### ●地域に必要なこと、やってみたいこと

【君津中央】広い範囲での交流の機会・子どもの参画・高齢者の交通手段・防災対策・共働きでもできる活動・時代にあった情報発信・魅力のPR・新しい産物の開発・自治会の加入率・コミュニケーションの機会・新しい住人との考え方の違い(相互理解)・子育てカフェ・地域の景観

【八重原】買い物支援・安全対策・美化作業・アパート、空き家に新しい人を入れる・居場所作り・子ども食堂・地域の保健室・お年寄りが活躍できる場・地域を知ること、地域を愛する気持ちが生まれる・若い世代・子ども・単身の男性・地域社会に関わるのが難しい世代・日曜日の午前中に会合を持つ・情報が溢れているため、情報をつなぐ人が必要・働く場所を増やす・世代にそったアプローチの工夫・人と人をつなぐ工夫・自治会の分析

【周西】人が集まるイベント、祭り・人と人をつなげる人・人の集まる場所・若い人に参加してもらう・特産品・やる気のある人

【周南】若い人と高齢者・若い人が住める地区・生活ができる整備・枝葉の道を広くする・整備が必要・お年寄りの困りごとを手助け・地域全体で交流できるイベント・通学のコミュニティバスを使いやすくする・自治会の再編成・若い世代が意見を言える場・市街地と山間部をつなげる・若い人や子育て世代が集まる施設や公園・移住者の支援・地区特有の体験ができる・サミットで人材発掘

### ▶ 《アンケート(抜粋)》

#### 制度について

- ・市民の声の反映として、良い制度と思う。
- ・ぜひ、地域住民をまきこんでもらいたい。
- ・準備会「前」の地域での話し合いが必要。
- ・はっきりとしない部分も有るが、期待する部分も大きい。
- ・時間がかかるかもしれないが、すごく楽しみ。
- ・コーディネーター役としての市の役割が大変に重要になる。
- ・自治会と連携しつつ、他地域の方とも交流がもてるので、とても良いと思う。市に支えてもらいながら、ボトムアップ制度であってほしい。
- ・高齢者と現役世代・子供たちとの架け橋になるような制度になれば、自ずと地域が活性化に繋がると思う。

#### 懇談会の感想、ご意見

- ・年齢の幅がない。若い人が欲しい。
- ・居住地、年齢関係なくお話できてよかった。
- ・次のステップをどうするか、そこがカギ。
- ・各団体や組織では限界がある。地域でどんな活動をしたいか考えることで、力を集結できるし、一つの成功例から広がっていくと思う。
- ・高齢者と子育て現役世代のコミュニケーションツールの違いを踏まえた発信を周知し、その上での世代間の繋ぎ役の必要性を痛感した。この土壌を作らなければ、地域の活性化は進まない。

